

第4回 東金市外三市町清掃組合新ごみ処理施設処理方式検討委員会 会議録

<開催日時>

平成30年9月29日(土)午後1時30分から午後3時まで

<開催場所>

東金市外三市町清掃組合2階小会議室

<出席者>

○新ごみ処理施設処理方式検討委員会

荒井委員長

出口副委員長

藤原委員

○事務局

東金市外三市町清掃組合

二井事務局長、小川総務課長、片岡計画係長、根本主査、日暮副主査、谷川主任主事、北田主事

○パンフィックコンサルタンツ株式会社

中尾技師、篠木技師

<会議内容>

1. 開会

2. 議事

(1) 二次選定評価項目の検討

(2) メーカーアンケート調査内容（ヒアリング項目）の検討

(3) 二次選定審査方法の検討

3. その他

4. 閉会

<議事概要>

2. 議事

(1) 二次選定評価項目の検討

・前回の委員会での指摘事項を反映した資料を基に二次選定評価項目の検討を行い、評価項目について決定した。

(2) メーカーアンケート調査内容（ヒアリング項目）の検討

・二次選定評価項目と併せて審議され、ヒアリング項目についても決定した。

(3) 二次選定審査方法の検討

・各評価項目への重要度及び配点の配分について説明し、内容について了解をいただいた。また、評価の方法について、定量評価及び定性評価のいずれも絶対的な評価基準をもって評点を決定するのではなく、委員会での審議の上、評点を決定する方針を確認する。

【以下主な質疑・意見】

(1) 二次選定評価項目の検討

<委員> 排水量の評価項目について、雨水以外の排水は全量施設内で処理する想定としていることから、高効率ごみ発電を達成するために施設外への排水がないか確認することだが、新施設ではボイラ発電を実施すると考える。その際ボイラ排水がネックになり、ボイラ排水がなければ高効率発電は問題なく達成できると考えるが、炉を停止した際のボイラ排水を容量的にどう飲み込めるかといった部分が論点になると思うので、その部分をよく整理していただきたい。

<事務局> 了解しました。

(2) メーカーアンケート調査内容（ヒアリング項目）の検討

<委員> 高効率ごみ発電施設の建設実績数の確認方法について、施設規模を考慮せず、環境省による高効率発電の交付金交付要件を満たす施設の絶対数を見て評価を行うのか、あるいは、類似する施設規模の事例の内、各処理方式における各メーカーの実績数の合計を整理するのか。

<事務局> 施設規模が類似する施設事例を前提として、整理したいと思います。

(3) 二次選定審査方法の検討

<委員> 定量評価も定性評価も固定的なものではなく、委員会で審議の上評価を決めるという方針について、例えば、長期稼働日数について350日といった現実的ではない回答があった場合等においても、実際に出てきた数値を委員会で判断するといった考え方でよろしいか。

<委員> 異議なし。

<委員> それでは評価方法について、以上の考え方で行うこととする。

3. その他

- ・ 次回の第5回処理方式検討委員会について、10月11日午前10時30分より、シャフト式ガス化溶融炉を運用している東埼玉資源環境組合第二工場及び流動床式ガス化溶融炉を運用している川越市資源化センターの視察を行うことを確認する。
- ・ 第6回処理方式検討委員会として、11月30日午前9時より、ごみメタン化+焼却方式でごみ処理を行っている防府市クリーンセンターへの視察を実施することを確認する。

4. 閉会

※委員会閉会后、組合現有施設の施設見学を実施し、焼却及び灰溶融設備についての視察を実施した。視察中に、現状の組合のごみ処理量やごみ質の状況、灰溶融設備の稼働実績等についての確認も併せて行った。